

電気のふるさと



特集 「協働」と「連携」によるまちづくり① ～鹿児島県・薩摩川内市のシティセールス事業～
「モノ・ヒト・コト」を総動員して
市民ぐるみで事業を推進する薩摩川内市の挑戦

■わがまち自慢 ～町長室から～
福井県高浜町

■電源地域情報ひろば
平成24年度7～9月のイベントカレンダー

■電源地域振興トピックス
産品開発や交流人口拡大に向けた取組み

■センター活用術 ～活力ある地域づくりに向けて～
特産品開発を切り口に地域コミュニティの活性化を
愛媛県伊方町 田村菓子舗

■センター掲示板

■第2回 電気のふるさとフォトコンテスト 審査結果

わがまち自慢 ～町長室から～

たかはまちょう
福井県高浜町
のせ ゆたか
野瀬 豊 町長



町政をお預かりしてこの5月で2期目に入りました。1期目は真っ白いキャンバスに絵を描くように、地域づくりを進めるという意味で「高浜白宣言」を提起させていただきました。外部の有識者などの皆様の高浜町に対する客観的な評価などを踏まえて、まちづくりを進めてまいったわけですが、おかげさまで、この4年間で大まかな輪郭を描くことができました。具体的には、高浜町では昨年度、平成23年度から平成32年度までの「高浜町総合計画」を作成いたしました。その中で「コンパクトシティ戦略」「環境貢献戦略」「閃きまちづくり戦略」「地域医療システム構築戦略」「原子力共生戦略」といった5つの基本戦略を提示させていただきました。“まち自慢”ということですので、数ある中でもそうした基本戦略に関連する一部の事柄をご紹介します。

実は高浜町は、私が1期目に町政を預からせていただく前の平成20年頃、医療崩壊寸前にありました。平成13年ごろから次第に医師の数が減少し、それに伴う医療機能の縮小という事態に危機感を覚えた私は、医療問題の解決をmanifestoに掲げて町長に当選させていただいたわけですが、平成20年よりワーキンググループという形で外

部専門家の意見を取り入れて医療政策を練ってきました。その議論の中で提案されたのが“寄附講座”の開設でした。町の寄付により、福井大学医学部が町内の医療機関で医師育成などを行う「地域プライマリケア講座」*1 というものです。全国各地にこうした寄附講座が開設されていますが、町単独での医学部寄附講座は全国で初めてでした。

今年で3年を経過したわけですが、町における地域医療研修者の数は3.2倍に増加しました。ただ単に診療人員を確保できただけではなく、次世代の地域を担う医師の育成や、地域の主役である住民の皆様への支援など、想像を大きく上回る様々な効果を生み出させていただきました。今後も地域医療システム構築戦略の一環として、高浜町が町のみならず福井県や全国の地域医療問題解決のモデルとなるよう、できるだけ支援を継続したいと考えています。

若狭たかはま漁火想（いさりびそう）*2 という実行委員会形式で行うイベントも自慢のひとつです。今年で10周年を迎えます。約1万2,000本のキャンドルを並べる「砂浜キャンドル・まちなかキャンドル」や「櫓龍（やぐらドラゴン）」、「水中花火」など静と動の、光と音の壮大なイベントで毎年スケールアップ

してきました。これを目当てに多くの観光客の皆さんに、高浜町を訪れていただいているイベントになっています。その中の「櫓龍（やぐらドラゴン）」は数万個の市販されているドラゴン花火を並べ、一斉に点火するものです。これは「日本珍百景」にもなりました。「砂浜キャンドル・まちなかキャンドル」では町民の皆さんをはじめ観光客の皆さんにも、キャンドルの点火などに参加していただいております。このように「漁火想」は住民や観光客の皆さんとともに“にぎわい”を創りだす、まさに「協働」のイベントとなっています。

私たちは「選ばれるまち」を目指しております。観光客などの外部の人から、居住者から、その意味では医師からも選ばれる魅力あるまちを志向しています。そのためには、私たちは客観的な視点で外部のニーズを捉えることが重要になってきます。

2期目に入って、キャンバスに描かせていただいた大まかな輪郭の上に、いよいよ、「色付け」の時期に入ったと思っています。（談）

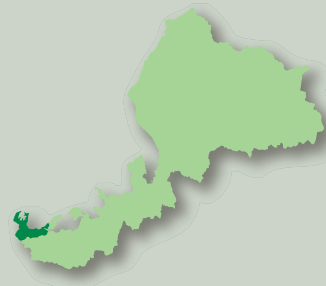


※2 若狭たかはま漁火想（いさりびそう）

毎年7月の最終土曜日に開催される。海水浴場の砂浜いっぱいに並べられる「砂浜キャンドル」や街中の道路や路地に並べられる「まちなかキャンドル」、ドラゴン花火などを使った多彩な演出による花火ショー「櫓龍（やぐらドラゴン）」などで構成される。主催は若狭たかはま漁火想実行委員会。

※1 高浜町「地域プライマリケア講座」

高浜町の寄付により、福井大学医学部が社会保険高浜病院と町内の国民健康保険・和田診療所で医師育成を行う寄附講座。講座の担当医師は学生に臨床実習や研修医教育を指導すると同時に、町内の医療機関で診療を行い、また地域医療向上にむけた住民啓発活動も行っている。また、それに関連して医学生向けに海浜救護所のボランティアや地域医療の体験学習を行う「海と地域医療を体験するツアー」の開催も話題を呼んでいる。



特集

「協働」と「連携」によるまちづくり①

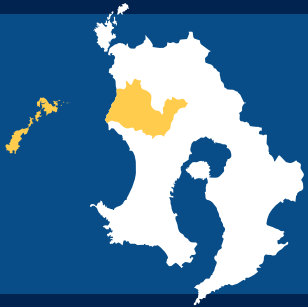
〜鹿児島県・薩摩川内市のシティセールス事業〜

「モノ・ヒト・コト」を総動員して 市民ぐるみで事業を推進する 薩摩川内市の挑戦

さつまぜんたい



今、地方は「競争の時代」に突入したといわれる。人口の減少・高齢化を背景に都市間競争の中で、内外の住民に個性豊かな「選ばれるまち」が生き残っていくという時代に入っているというのだ。今回は、鹿児島県・薩摩川内市が推進するシティセールス事業の中で「都市ブランド」を構築する手法を紹介する。



【写真】

上段左:「きゃんぱく」プログラムNo.32 絶壁の上にある草原から海を眺める
上段中央上:「きゃんぱく」プログラムNo.02 テーブルウェアを作りませんか?
上段中央下:「きゃんぱく」プログラムNo.01 世界に誇る甲冑を体験 ～川内戦国村 甲冑着用体験～
上段右:「きゃんぱく」プログラムNo.15 夏休み 甑島ファミリーアート教室
下段:「きゃんぱく」プログラムNo.47 リバースクール「水辺で遊ぼう! 内之尾川と棚田の自然観察」

「市民が創り 市民が育む 交流躍動都市」の具現化

鹿児島県・薩摩川内市では平成21年から「地域の宝を再度見つめ直し、さらに磨きをかけながら、まるごと市内外へ総合的なセールスを行う」いわゆるシティセールスを展開している。一般的に「シティセールス」とは文字通り「都市を売り込む」とだが、地方自治体がまちの特色や魅力を他の自治体や企業に売り込むことによって、知名度や好感度を上げていくのが目的とされる。そのためには、他地域との差別化ができる個性、即ち「都市ブランド」の確立が必須ということになる。

薩摩川内市がシティセールスの取り組みを本格化させたのは、平成20年11月の市長選

年11月の市長選
 マニフェストに
 「シティセール
 スの推進」を掲
 げた岩切秀雄現
 市長の就任から
 だ。翌21年4月
 に「シティセー
 ルス推進本部」
 を設置して検討
 を重ね、22年4
 月、観光交流部
 にシティセー



ス推進課（その後、観光・シティセールス課に改組）を発足させ体制を整えた。22年12月に、その活動指針である「薩摩川内市ブランド・シティセールス推進計画」を発表する。

『市民ぐるみ』と『雇用創出』の2つのキーワード

「最初に市長から言われたことは、『市民ぐるみ』と『雇用創出』の2つの課題でした。この2つのキーワードをもとに事業の立ち上げに取組んだわけです」と、計画当初から事業に参画している古川英利観光・シティセールス課長は語る。

まず、このシティセールスの展開にあたり、当面の目標を知名度・好感度の向上に置き、そこから市民ぐるみの展開による郷土愛の醸成、さらに雇用拡大・市民所得の向上といった、地域経済の活性化を目指すものとした。

その背景には、平成20年に行ったインターネット調査があった。そこでは、薩摩川内市の知名度

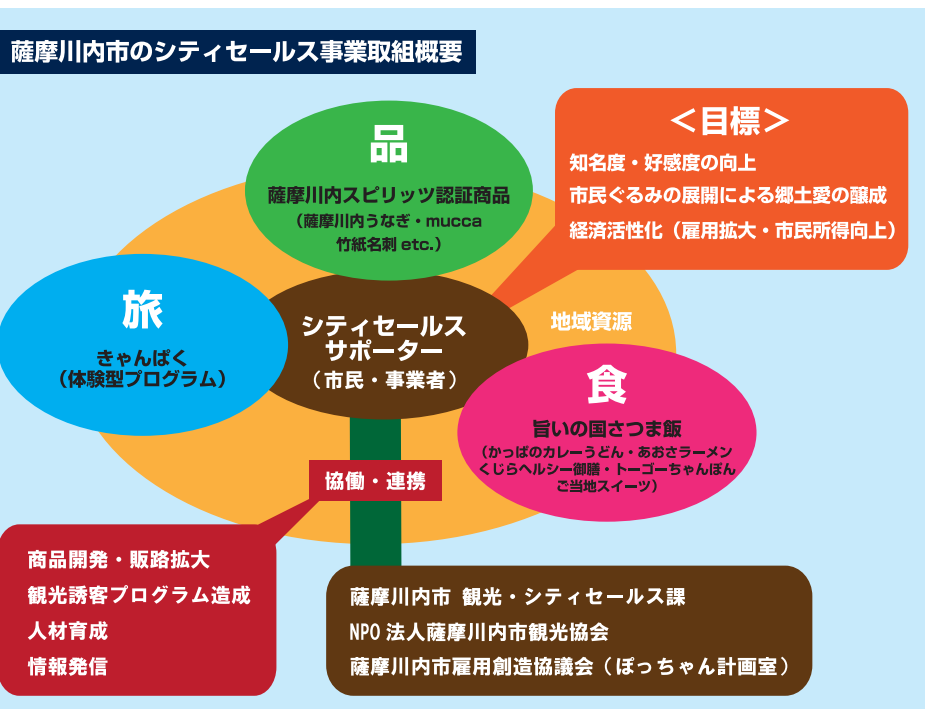
薩摩川内市のまちづくりの基本理念は「地域力が奏でる都市力の創出」。平成17年度からの10カ年の「第1次薩摩川内市総合計画基本構想」には、この理念のビジョン「市民が創り市民が育む 交流躍動都市」を掲げており「ブランド・シティセールス推進計画」はまさに、このビジョンの具現化であった。

コンセプトは「スピリッツ(Spirit's)」。この言葉は「精神・心・気概・気分・快活・元気・情熱・本気」といった多様な意味を持つ。そしてキャッチフレーズは「薩摩川内スピリッツ」。動と静の二面性を持たせ、静の部分では「包容力・こだわり」、動の部分では「先駆性・探究心」という意味を持たせた。



薩摩川内市 観光・シティセールス課 課長 古川英利さん

は県内9市中6位と低く、自然や名勝・史跡、食事・特産品などの地域資源評価では、その魅力度も低いという結果となっていた。こうした知名度や魅力度の低さを克服するために、市民ぐるみで推進し、雇用創出・市民所得を向上させる仕組みを創るといふミッションとな



■シティセールス これまでの経過

年	月	経過
平成16年	2月	●合併協定締結項目の市町村建設計画(まちづくり計画)に「新市ブランドの形成」が掲載される
	10月	●市町村合併により薩摩川内市が誕生
平成17年	4月	●第1次薩摩川内市総合計画にブランド計画策定が掲載される
平成20年	11月	●市長選マニフェストに「シティセールスの推進」を掲げた岩切秀雄市長が就任
平成21年	3月	●市長が「観光元年」を宣言
	4月	●市にシティセールス推進本部を設置(本部長:向原副市長)
平成22年	1月	●企画政策部にシティセールス推進監とシティセールス推進準備室を設置 ●ロゴマーク「薩摩川内スピリッツ」の商標登録
	4月	●観光交流部(シティセールス推進課、観光課)発足
	7月	●シティセールスサポーター制度スタート ●国産竹100%使用竹紙の利用促進協定締結 ●商標登録「薩摩川内スピリッツ」認証第1号製品販売開始
	11月	●ご当地スイーツ「mucca」販売開始
	12月	●薩摩川内市ブランドシティセールス推進計画の改定
平成23年	1月	●薩摩川内市雇用創造協議会発足
	2月	●シティセールスサポーター大交流会開催 ●「きゃんぱく(薩摩川内スピリッツ・きやんせ博覧会)春旅」開幕(87日間)
	3月	●九州新幹線全線開業。「きやんせふるさとフェスタ」開催(川内駅周辺) ●薩摩川内市地域再生計画の認定(総理大臣)
	4月	●薩摩川内市雇用創造協議会事務局の設置(商品開発開始) ●新観光船「かのこ」就航
	6月	●旅行商品造成支援事業スタート
	7月	●『『こころ』観光・特産品ガイド』ホームページの開設 ●Facebookページ「薩摩川内シティセールス」の開設 ●きゃんぱく夏旅開幕(32日間)
	8月	●雇用創造協議会「しずくの学校」セミナー事業の開始 ●『『こころ』観光・特産品ガイド』ホームページオンラインショップを開店
	10月	●きゃんぱく秋旅開幕(55日間)
平成24年	4月	●観光交流部と商工政策部を「商工観光部」に再編。「観光・シティセールス課」の設置 ●Facebookページ「薩摩川内市」の開設
	6月	●きゃんぱく夏旅開幕(107日間)

このように、市民・事業者による「旅」「品」「食」の事業を行政が支えていくというものが、支えるのは行政だけでなく、従来からあるNPO法人薩摩川内市観光協会のほかに「雇用創造協議会」といった組織も担う。これは、市役所、市内の商工会議所、商工会、観光協会、ホテル旅館組合、農協、漁協といった団体が会員となって立ち上げ

たもの。『ぼっちゃん計画室』と呼ばれるこの組織は、厚生労働省の「地域雇用創造推進事業」を活用して商品開発員と事業推進員の合計15名が配置されている。その主な役割は、商品開発・販路拡大とセミナー事業の2つ。このうち、主に甕島で市民・事業者とともに地域資源を活用した商品開発・販路拡大や体験プログラムの造成を行うのが商品開発員だ。セミナー事業は、主に事業推進員が行う市民を対象にした「しずくの学校」と呼ばれる、各種セミナーの開催。観光の専門家や起業プランナーなどを招いて

「きゃんぱく夏旅」のガイドブック。プログラム主催者の顔が必ず掲載されている



「事業者においてのシティセールスは、社会活動を担う中で利益を得る機会をいかに創りだすか、だと思います」と、古川課長は言う。このように行政としては、市民と事業者がシティセールスを通じて地域社会の一員として自らの主体性と責任のもとに、市の発展に積極的に関わっていくことを期待している。

「事業主体は「シティセールスパートナー」と呼ぶ企業や個人事業者で行政はそれぞれを関連させながら支援する。「旅」については、通称「きゃんぱく」という体験型旅プログラムをメインの事業にした。この事業については後述するが、多くの市民が事業参加できる体験型プログラム。「品」については商標登録「薩摩川内スピリッツ」の認証商品の販売促進や特産品の開発で、現在、甕島を中心に

外部の気づきを市民・事業者と共有

「旅」「品」「食」の3つ。大きく分けて「旅」「品」「食」の3つ。事業主体は「シティセールスパートナー」と呼ぶ企業や個人事業者で行政はそれぞれを関連させながら支援する。

「ぼっちゃん計画室」と呼ばれるこの組織は、厚生労働省の「地域雇用創造推進事業」を活用して商品開発員と事業推進員の合計15名が配置されている。その主な役割は、商品開発・販路拡大とセミナー事業の2つ。このうち、主に甕島で市民・事業者とともに地域資源を活用した商品開発・販路拡大や体験プログラムの造成を行うのが商品開発員だ。



この「ぼっちゃん計
画室」のメンバーの多
くはインターンやウター
ン組だ。中には大手企
業を脱サラして甌島に
住み込み、産品開発を行
い、大都市の大手百貨店
での試験販売にまでこ
ぎつけたケースもある。
こうしたメンバーによ
る「外部からの気づき」
を特産品開発や観光商
品の開発に活かして、
シテイセールスを充実
させていきたいという行
政側の期待も、そこには
ある。



「きゃんぱく」プログラムNo.23 ワインの基礎知識と地元食
材を使ったフルコース

最大の特徴は「シテイセールスサポーター」制度

薩摩川内市のシテイセールスの最大の特徴は「シテイセールスサポーター」制度だ。文字通り、シテイセールスをサポートするメンバーで薩摩川内市の「モノ・コト・ヒト」を内外にPRする。市長を始め市議会議員、市職員を含め現在の登録会員は4,200人で目標は5,000人。「いつでも、どこでも、できる事」を、できる範囲で行うボランティアだ。インターネットのブログ等による情報発信、商品やイベント情報を口コミで発信する。登録は個人や企業やコミュニティ単位でもできる。本年度から、「特典制度」も導入しており、会員証を見せれば、市内の協賛店で各種サービスや料金割引などを受けることができる。
「当初、この会員数を増やすことに苦労しました。市民の皆さんへの主旨の説明に始まって、シテイセールスの全体像を理解していただき登録者を増加させることが、この事業のキモでしたから課の職員総出の作業でした」と前述の古川課長は語る。
シテイセールスのPRの手法には様々ある。薩摩川内市の場合、「市民ぐるみ」というコンセプトのもと、費用対効果の面でも有効な「口コミ」

が期待できる「シテイセールスサポーター」という手法をメインにした。その他に、全日空の飛行機の機体に「SATSUMASENDAI 薩摩川内市」という文字を入れる自治体ラッピングや各種ポスターの作成

市内の地域資源や人材を総動員する「きゃんぱく」事業

「旅」「品」「食」の事業のうち、大きな展開を見せているのが、「きゃんぱく」と呼ばれる「旅」の事業だ。正式名称は「薩摩川内スピリッツ・きゃんぱく博覧会」。通称「きゃんぱく」といい、平成23年春にスタートした。この「きゃんぱく」という意味は鹿児島弁の「いらっしやいませ」という意味であり、博覧会とあわせた造語である。実施主体は行政と観光協会で作る実行委員会で、農家、漁家、商工業者から、文化人、各界で名人や達人と呼ばれる人々など105の企業・個人が「きゃんぱくパートナー（実施者）」となり「きゃんぱく」の各プログラムを企画・実施する。
市内の名所・旧跡はもちろん、産業・文化・民俗などのあらゆる地域

などのPRを行っているが、この手法は「FACE to FACE」という地道ではあるが確かなものといえる。その中から、具体的な事業を行う新たな市民・事業者が生まれてくるといふ相乗効果も期待できるのだ。人口約10万人のうち、約5%の会員がシテイセールスを担うという、まさに「市民ぐるみ」のネットワークを持つ事業となっている。

資源と人的資源を動員し、季節ごとに「創る・味わう・めぐる・いやす・動く」といったカテゴリー別の「体験型プログラム」となっている。
平成24年度の「夏旅」のプログラムは50。具体的には、甲冑製作で知られる市内の企業が経営する「川内戦国村」での甲冑着用体験や「せんだい宇宙館」での天体写真撮影体験、市内のレストランでの「ワインの基礎知識と地元食材を使ったフルコース」や地元出身の画家による「夏休み甌島ファミリーアート教室」など。ユニークなところでは、肥薩おれんじ鉄道とタイアップした「婚活列車2時間の旅」などだ。
この背景には、平成23年3月の博多駅から鹿児島中央駅までの九州新



NPO法人 薩摩川内市観光協会
事業課長 有馬 眞二郎さん

幹線の全線開業にともない、観光客に薩摩川内市にある川内駅をスキップされてしまうのでは、という危機感があつた。それゆえ、可能な限りの「プログラム」を提起して、まずは市民に、そして県民、県外のお客様に知ってもらおうというもの。その意味で、商圏の重点エリアを、まず鹿児島市と北部九州などにおき、そのターゲットを「大人の女性」においた。

昨年春の開募当時のプログラム数は103。可能な限りのプログラム数を用意して、市民や県内・県外に発信した。

計画当初から参画し、現在はNPO法人薩摩川内市観光協会に出向して「きゃんぱく」事業を担当する有馬眞二郎事業課長は「当初、職員が九州各地の体験プログラムなどを視察することから始めたのですが、このプログラム数をそろえるのは大変でした。市内のあらゆる事業者に声をかけ、説明会を行ったのですが、とにかく主体となるきゃんぱくパートナー探しには苦労しました」と語る。

シティセールスを推進する人々



株式会社ハートフル
取締役事業部長 知識 晃さん

市内で冠婚葬祭や食品加工業を営む若手実業家の知識晃(36歳)さんは、シティセールスサポーターであると同時にきゃんぱくパートナーのひとりでもある。都内の大学を卒業後、時計販売会社へ就職し東京・新宿や愛媛・松山勤務を経験したUターン組だ。育ててくれたまちへの恩返しとしてもっと盛り上げたいと感じていたところに、シティセールスサポーターの話があり、すぐに登録した。「きゃんぱく」でも「婚活列車」の企画に参画している。

「外での生活を経験したものだからこそ客観的に今の薩摩川内市を見つめることができます。人は楽しいところに集まるわけですから、同級生が帰って来て楽しいと言えるまち、先人が作った財産を後世に残していけるまちにしたいという思いがあります。その意味で自由な発想で参加できる「きゃんぱく」は“入口”であり自己紹介の場ですね。そこで得た人とのつながりを大事にしながら、今後もまちづくりに積極的に関わっていきたいと思います」と知識さんは語る。

薩摩川内市雇用創造協議会(ぼっちゃん計画室)の二木俊輔(30歳)さんもUターン組のひとりだ。インドや東南アジアを旅して帰ってきたときに知識さんと知り合う。そこでシティセールスサポーターの話聞き、積極的に参加した。今は市が募集した「ぼっちゃん計画室」に応募し事業推進員として人材育成セミナーの企画・運営に携わっている。

「セミナー内容の企画や講師の選定など、最初は手探りでしたが今はとても楽しいです。なにより、人と出会えるのが嬉しい。様々な人とまちづくりに携わる生活がとても充実しているんです」と二木さんは満面の笑みを浮かべて語る。

こうした人々に様々な“挑戦の場”を与えるのも薩摩川内市のシティセールスの大きな役割でもあるのだ。



薩摩川内市雇用創造協議会
(ぼっちゃん計画室)
事業推進員 二木 俊輔さん

その結果、平成23年春から本年春までの「きゃんぱく」参加者数は1万284名で、平均単価約3,000円として約1,500万円の直接効果があつた。参加者のうち約68%が女性でターゲットとしていたものとほぼ合致した。きゃんぱくパートナーの意識も向上している。「やって良かった」という声がほとんどだ。

「仕組みはできました。今後はオリジナルな地域資源の掘り起こしや再生と、今あるプログラムのブラッシュアップが必要となるでしょう。目標はきゃんぱく参加者数・年間1万人です」と有馬課長は語る。

シティセールスの今の課題と展望について古川課長は「課題は、この事業に携わる全ての人の意識向上です。もっと事業の質を高めていく必要があります。セミナーなどを通じて人材育成を行っていきます。多くの市民を巻き込むさらなる仕組み作りも必要でしょう。自負心を持つサポーターが育つことも期待しています。観光や物産の振興は行政主導よりも民間主体があるべき姿で、それ

を10年ぐらいのスパンで移行させていきたいと思っています。

歌の上手な歌手はたくさんいます。歌の上手な歌手はたくさんいます。今は上手な歌手になる努力を懸命に行っています。上手になって人気も出るようになりたいというのが今の願いです」と語る。

確かに薩摩川内市のシティセールスの挑戦は始まったばかりだ。今後の動向におおいに注目していきたい。

10年ぐらいのスパンで行政主導から民間主体へ

「協働」と「連携」によるまちづくり① ～鹿児島県・薩摩川内市のシティセールス事業～

■きゃんぱく 主なプログラム

創 る	No.01 世界に誇る甲冑を体験 ～川内戦国村 甲冑着用体験～ 全国的に知られる甲冑製作会社丸武産業株式会社が運営する「川内戦国村」で、TV映画で使用する鎧を試着するプログラム。	主催者 丸武産業(株)川内戦国村 定員 10名(最少催行人数:1名) 参加料金 大人2,000円 子供1,800円
	No.02 テーブルウェアを作りませんか? 世界にひとつだけの器やオブジェをつくり、物づくりの楽しさを味わうもの。プログラム19の石窯で焼くピザパーティと組み合わせる参加も出来る。	主催者 サイトウハウス 定員 6名(最少催行人数:3名) 参加料金 大人3,000円 子供1,000円
	No.04 季節のお菓子づくり 米粉のお菓子づくりにチャレンジする。米粉を使ったドーナツやマドレーヌなどお菓子づくりを楽しむ。	主催者 のせ菓業 定員 10名(最少催行人数:2名) 参加料金 2,000円/1人
	No.05 ステンドグラスへの招待状 ステンドグラス工房でオリジナルのステンドグラスを作る。テーブルランプ、ナイトライト、フォトフレームの3つのプログラムを用意。	主催者 マドニ・ステンドグラス工房 定員 8名(最少催行人数:1名) 参加料金 3,500～6,500円
	No.08 甌風塩・甌島での塩作り体験 甌島で塩作り体験。透明度の高い甌島の澄んだ海水を使用します。その間にハガマでごはんを炊き、あおさ汁を作り、きびごの塩焼きで昼食を楽しむ。	主催者 水連システム(有) 定員 8名(最少催行人数:1名) 参加料金 2,000円
	No.09 恐竜を粘土で作ろう 下甌島、鹿島町で7,000万年前の地層から恐竜の化石が発見された。この恐竜の姿を粘土で自由に工作する。主催者は鹿島町出身の画家。	主催者 中野 洋一 定員 10名(最少催行人数:1名) 参加料金 大人3,000円 子供2,500円
	No.10 甌の浜辺の石や流木でアート 甌島の海岸で拾った浜石や流木にゴム版で絵や文字を彫り、印刷したり筆で描くもの。主催者は鹿島町出身の画家。	主催者 中野 洋一 定員 10名(最少催行人数:1名) 参加料金 大人2,000円 子供1,000円
	No.12 カヌーを作ろう!! 組み立てキットを使って海や川で遊べるカヌー、カヤックを製作する。プログラムでは、船体が組みあがるまで作業する。	主催者 (有)アーキ・テック 定員 2組(最少催行人数:1組) 参加料金 49,000円～/1組
	No.13 「竹紙」でつくる世界にひとつだけのメモ帳 「竹紙」でメモ帳を作り、雑誌や新聞などの切抜きなどでメモ帳の表紙をコラージュする。	主催者 中越パルプ工業(株)川内工場 定員 20名(最少催行人数:5名) 参加料金 大人2,000円 子供1,000円
	No.15 夏休み 甌島ファミリーアート教室 風景画に挑戦する「絵画教室」、「かざら細工」や「フラワーアレンジメント」「茶の湯」、「流木と玉石アート」などの多彩な教室を用意。	主催者 甌島アート工房&ギャラリー「あっぱーら」 定員 20名(最少催行人数:10名) 参加料金 3,500～4,500円
	No.16 八重高原で「ヤキもち」体験 八重山高原で開催される七夕「星物語」を楽しみながら、つきたての「焼きもち」を楽しむ。織姫と彦星にやきもちを焼くことになっている。	主催者 大馬越地区コミュニティ協議会 定員 30名(最少催行人数:1名) 参加料金 1,000円
	No.19 石釜で焼くピザパーティー 東シナ海を眺める庭で石窯ピザパーティを楽しむ。プログラム02のテーブルウェア作りと組み合わせる参加も可能。	主催者 サイトウハウス 定員 10名(最少催行人数:3名) 参加料金 2,000円
	No.20 くじら料理はヘルシー料理 甌島には昭和20年代にクジラの基地があった。クジラには『バレニン』という疲労回復効果のあるアミノ酸やビタミンAなどがあり、ヘルシーな食品として注目されている。	主催者 割烹旅館 安藤 定員 20名(最少催行人数:2名) 参加料金 5,100円
No.21 パッションフルーツ収穫体験 目の前に海が広がるビニールハウスで甌島産のパッションフルーツを収穫・試食体験をする。贈答品として送ることも可能。	主催者 甌フルーツ園 定員 20名(最少催行人数:1名) 参加料金 大人3,000円 子供無料	
No.22 ブルーベリージャム作り体験教室 太陽を浴びて糖度を増した新鮮ブルーベリーで1年間保存できる本格的ジャム作りに挑戦するもの。ブルーベリー狩りも楽しめる。	主催者 近藤農園 定員 10名(最少催行人数:3名) 参加料金 1,000円(別途材料費必要)	
No.23 ワインの基礎知識と地元食材を使ったフルコース 川内1番のワイン数を誇る店がおススメするワインの講座と地元食材を使ったフルコース料理を楽しむもの。	主催者 ブラッスリータストヴァン 定員 18名(最少催行人数:4名) 参加料金 5,000円	
No.24 もぎたてブドウでぶるぶるゼリーづくり 夏はぶどうの季節。五色親水公園近くのブドウ園でもぎたてのブドウでゼリー作りを楽しむもの。(昼食付)	主催者 永山ぶどう園 定員 10名(最少催行人数:1名) 参加料金 1,000円	
No.25 「きゃんぱく婚活列車! 2時間の旅2012」第7弾・8弾運行! 好評の婚活列車で肥後おれんじ鉄道車内で開催される。「出会いのまち 薩摩川内市」をコンセプトに地域に密着した男女の出会いをお手伝いする。	主催者 プライダールステージ 花こよみ 定員 男女各16名(最少催行人数各13名) 参加料金 男女共3,000円/1人	
No.26 東シナ海を見渡す釣掛崎灯台ハイキング 下甌島南端の手打港周辺はキバナゴやカジキの漁業基地でアカウミガメが訪れる貴重な場所。カメの産卵ポイントや塩尻に登る。	主催者 磯口旅館 定員 10名(最少催行人数:2名) 参加料金 大人2,500円 子供1,500円	
No.27 いむた池湖畔で婚活 ラムサール条約で知られる蘭年田池の手つかずの大自然の中で行う婚活。	主催者 湖畔リゾートホテルいむた 定員 40名(最少催行人数:20名) 参加料金 3,000円/1人	
No.29 カノコリをめぐる甌島 甌島がカノコリでピンクに染まる7月に行う。貸切バスで島を巡り語り部が甌島の魅力を紹介する1泊2日のツアー。	主催者 鹿児島県旅行業協同組合 ふた旅 魅旅 定員 20名(最少催行人数:5名) 参加料金 25,000円	
No.30 薩摩街道出水筋(御陵下～陽成) 歩行会 江戸時代の参勤交代にも使われた薩摩街道は昔からの歴史街道。街道の歩行活動を始めて10年、約50名が鹿児島島～出水間を踏破している。	主催者 薩摩街道保存会 定員 300名(最少催行人数:30名) 参加料金 300円/1人 中学生以下無料	
No.31 薩摩の国の一の宮をたずねて・御神鏡清祭 薩摩の国の一の宮として知られる新田神社や歴史と文化の風薫る神亀山、可愛山、神話の郷などを訪ねる。	主催者 いたつみろ会 定員 30名(最少催行人数:3名) 参加料金 200円	
No.32 絶壁の上にある草原から海を眺める カノコリとハマカンゾウが咲く草原まで登山して地元の人しか知らない絶景ポイントを楽しむ。夕食は海鮮バーベキュー。	主催者 太伸建設(株) 定員 10名(最少催行人数:4名) 参加料金 大人4,000円 子供3,000円	
No.34 甌で「かのこ」を満喫! 観光船「かのこ」に乗って甌大名神橋や甌島断崖などの断崖奇岩の続く絶景を楽しみ、クルーズのあとは絶品の海の幸のランチ。	主催者 薩摩川内市商工会 上甌支所 定員 10名(最少催行人数:2名) 参加料金 大人4,000円 子供2,570円	
No.35 甌のグルメと癒し体験 旬の甌島を体験するツアーで、東シナ海の朝日や露天風呂に満天の星と海を堪能する。	主催者 ホテルときしま 親和館 定員 10名(最少催行人数:2名) 参加料金 大人12,000円 子供8,400円	
No.39 天体写真撮影大会 『せんだい宇宙館』の大望遠鏡を使って、手持ちのデジカメで月面写真を撮影できる。撮った写真は特産の竹紙製のポストカードにプリント。宇宙食つき。	主催者 せんだい宇宙館 定員 15名(最少催行人数:1名) 参加料金 大人1,000円 子供800円	
No.43 薩摩の夜はナンコじゃnight 慶長3年に島津義弘が朝鮮から帰国した際に伝えたといわれる「ナンコ」。遊びのような伝統文化を子供達へつなげようというプログラム。	主催者 東郷温泉ゆつたり館 定員 50名(最少催行人数:10名) 参加料金 大人2,500円 子供1,000円	
No.45 くじらについて学ぼう 夏休み自由研究特別企画! 薩摩川内市とくじらの意外な関係や知られざるくじらの生態を知ることができる。	主催者 (株)ヤマカ 定員 8名(最少催行人数:4名) 参加料金 小学生500円	
No.47 リバースクール「水辺で遊ぼう! 内之尾川と棚田の自然観察」 日本棚田百選、内之尾の棚田と内之尾川の生きもの調査で水環境や生態系について学んだあと、沢下りを楽しむ。	主催者 NPO法人 川内川生きものクラブ 定員 小学生と家族15組(最少催行人数:10組) 参加料金 1,000円/1人	



No.04 季節のお菓子づくり



No.12 カヌーを作ろう!!



No.19 石釜で焼くピザパーティー



No.34 甌で「かのこ」を満喫!



No.47 リバースクール「水辺で遊ぼう! 内之尾川と棚田の自然観察」

背景にあるのは地域間競争

最近「シティセールス」が注目されている。

まぎらわしいのは「シティセールス」と「シティプロモーション」。政令指定都市を目指す人口規模の大きな自治体などが行う「シティプロモーション」を「シティセールス」と称していたりするからだ。

「シティセールス」は一般的に「自らのまちの特色や魅力などをブラッシュアップして、まるごと地域外に売り込む」というもの。単なる地域の宣伝やPR活動の枠を越えて、地域活性化の戦略的活動の意味を持つものといっても良い。

その背景にあるのは「地域間競争」だ。言うまでもなく、ほとんどの自治体は「少子高齢化」「定住人口減の阻止」「地域産業の育成」「教育・福祉の充実」といった課題を持つ。こうした諸課題を克服して真に魅力的な地域として、内外から「選ばれるまち」、即ち「地域争奪戦」の時代に入っているのだ。

「地域ブランド」の形成

「シティセールス」の定義にある「地域をまるごと売り込む」ために

は当然「地域ブランド」の形成が必要になる。

経済産業省は「地域ブランド」を「地域の持つ商品やサービスのブランド化と、地域の好感度や魅力度といったイメージのブランド化が融合した他地域と差別化できる個性」という表現を使っている。

こうした「地域ブランド」を形成し、それを他地域に売り込むことで、地域外から“外貨”を獲得して地域経済の活性化を図り、交流人口の増加から定住人口の増加までを視野に入れる。同時に「地域ブランド」の形成過程では、地域内の課題解決を目指す。これが「シティセールス」のあるべき戦略といえる。

それでは、「地域ブランド」の形成はどのように行われているのだろうか。

その形成過程は多種多様である。例えば、「ゆずの村」といえば高知県馬路村^{うましむら}を指し、「葉っぱビジネスの町」といえば徳島県上勝町^{かみかつちょう}を思い浮かべる人も多いはず。こうした地域は、「モノ・ヒト・コト」といった地域資源を探し出し競争力のある「地域特産品」や「地域サービス」として磨き上げ、それを魅力ある「地域イメージ」に融合させ個性的な「地域ブランド」を創造することに成功している。このほかに「焼そばの富士宮市^{ふじのみや}」なども良く知られている事例だ。

一方、まずは、美しい自然や深みのある文化を持つ地域のイメージを、まちづくりのコンセプトに練り上げ、「地域イメージ」をつくることから始める地域もある。そのうえで、地域製品の開発や地

域サービスを育成して、まとめた「地域イメージ」と融合させて「地域ブランド」の形成を図る。「百彩のもり・宮崎^{みやざき}県諸塚村^{もろつかむら}」、「写真のまち・北海道東川町^{ひがしかわちよう}」、「四万十ドラマ・四万十川流域地域」といった地域だ。

住民参画の仕組みづくりと郷土愛の醸成

そうした各地域に共通するのは「地域ブランド」形成過程の中の巧みな「仕組み」づくりである。

P.3～8で紹介した薩摩川内市の「シティセールス」でも、多くの市民・事業者が参加する「シティーセールスサポーター」という制度が事業全体の核となっている。

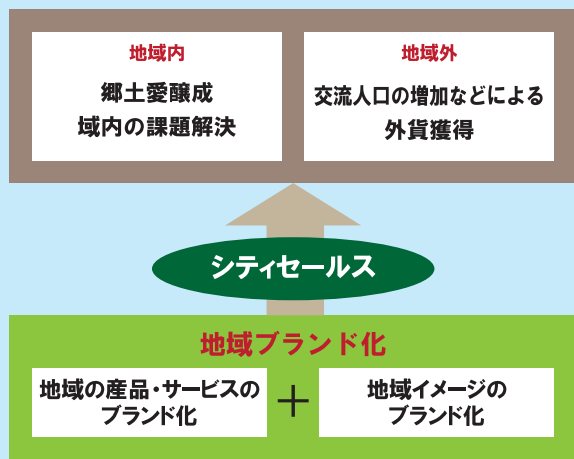
好事例といわれるものの多くは、広範な地域住民が社会活動を担う中で、利益を得ることが出来る仕組みを持つ。

即ち、アメリカの経済学者、ハーバード大学大学院教授のマイケル・E・ポーターの言う「経済的価値と社会的価値を同時実現する」という視点が「地域ブランド」形成の仕組みづくりには極めて重要なものになる。マイケル・E・ポーターは著書『戦略と競争優位』の中で「今日、最も優れた事業戦略を構築するためには、社会貢献、社会問題解決のような社会的側面を欠かせなくなっています」と述べている。

もうひとつの重要な視点は、地域住民の地域に対する郷土愛の醸成である。

地域の魅力を磨き上げるという作業は、郷土に対する「誇り」や「愛着」を生む。そしてそれは当然、外部に「口コミ」で広がり、共感した来訪者によってもたらされたよりよい地域の“すがた”への期待感もさらにとり込んで、自分たちの住むまちをさらに豊かにしていくのだ。

地域ブランドの形成とシティセールス事業



平成24年のイベントカレンダー

7月	★ 沖揚げまつり(神恵内村)	仏ヶ浦まつり(佐井村)★	
		第41回とまり群来まつり(泊村)★	漁火想2012(高浜町)★
			きなはいや伊方まつり(伊方町)★
			ぎおん柏崎まつり(柏崎市)→
			ウミガメ産卵観察会(御前崎市)→
	風間浦のイカ釣り体験(風間浦村)	→	
		まちなかライトアップ(会津若松市)	
	美浜ハートフル朝市(美浜町)※毎週日曜日		
	おも城サイトミュージアム(竹田市)※第2・4金曜		
8月	★ 第40回いわない怒涛まつり(岩内町)	★ 第32回共和かかし祭(共和町)	
	★ 第18回若狭おおいのスーパー大火勢(おおい町)	ひがしどおりよさこい来さい祭り(東通村)★	
	★ 第24回 茶北じゃっと祭(茶北町)★	★ ブルーマリンフェスティバル(大間町)	
	→ いいだ人形劇フェスタ2012(飯田市)	→ むつ市田名部まつり(むつ市)	
	→ 風間浦のイカ釣り体験(風間浦村)	→	
	まちなかライトアップ(会津若松市)		
	美浜ハートフル朝市(美浜町)※毎週日曜日		
	おも城サイトミュージアム(竹田市)※第2・4金曜		
9月	★ 第32回馬路おしどりマラソン(馬路村)★	★ 川内大綱引(薩摩川内市)	
	まちなかライトアップ(会津若松市)		
	美浜ハートフル朝市(美浜町)※毎週日曜日		
	おも城サイトミュージアム(竹田市)※第2・4金曜		

電源地域 情報 ひろば

「電気のあるさと」では電源地域の各市町村で開催されるイベントや伝統的なお祭りなどの情報をまとめて掲載するコーナーをつくりました。今回は7・8・9月の情報です。読者の皆様方で掲載のご希望がございましたら、電気のあるさと編集室までお知らせください。自薦、他薦を問いません。

■地域振興部 振興業務課 電気のあるさと編集室
☎03-6372-7305
E-mail : furusato@dengen.or.jp

共和町

北海道

ユニークな参加型イベント ～第32回共和かかし祭

町のキャラクター・かかしをメインとした共和町なら



ではのユニークな参加型イベントです。町民による個性的な手作りかかしが勢ぞろいする「かかしコンクール」を筆頭に、ばん馬や芸能ショーなどの趣向を凝らした催しが満載。農産物の試食会や即売会、バーベキューなどおいしいメニューも充実しています。

【開催日】8月18日(土)・19日(日)

【開催場所】憩いの広場(共和町役場裏)

【主催・問合せ先】共和かかし祭実行委員会事務局(共和町役場産業課商工観光係)

☎0135-73-2011

【URL】www.town.kyowa.hokkaido.jp

泊村

北海道

泊の夏を彩る ～第41回とまり群来まつり

盃海水浴場を会場に泊の味コーナーでは新鮮な海の幸



を使った焼きイカ・ホタテやウニ丼などが味わえます。また、姉妹提携をしている愛媛県伊方町の特産品コーナーも設けられ、特産品の販売等が行われます。ステージではキャラクターショーなどが行われ、夕方には有名タレントによる歌謡ショーがまつりを盛り上げ、日本海の漁り火をバックに弁天島から打ち上げられる花火がフィナーレを飾ります。

【開催日】7月21日(土) 10:00～

【主催・問合せ先】群来まつり実行委員会(泊村役場経済部産業課内)☎0135-75-2101

【URL】www.vill.tomari.hokkaido.jp

神恵内村

北海道

神恵内のおいしい夏 ～沖揚げまつり

積丹半島の夏を告げる第34回沖揚げまつりが開催され



ます。「ホタテ釣り」などのお楽しみや漁協と商工会による魚介類・海産物の販売が行われ、まつりの看板ともいえる「神恵内龍神鯨沖揚音頭」や「松前神楽」などの郷土芸能、歌謡ショーなどで盛り上がります。

【開催日】毎年7月第1日曜日

(今年は7月1日開催)

【主催】神恵内沖揚げまつり実行委員会

【問合せ先】

神恵内村役場産業建設課 ☎0135-76-5011

神恵内村商工会 ☎0135-76-5115

【URL】www.vill.kamoenai.hokkaido.jp

下北の伝統行事に触れる
～仏ヶ浦まつり

佐井村を代表する景勝地である仏ヶ浦は、古くから地



元の人々の信仰の場所として大切にされてきました。仏ヶ浦海岸には地蔵堂が建てられ、毎年7月24日には仏ヶ浦まつりと称して礼拝が行われます。地元の女性が集まり、海岸に点在する地蔵や奇岩へご詠歌を奉納します。また、数人で輪になり、念仏をお唱えしながら長い数珠をみなで廻します。

【開催日】7月24日(火)

【時間】9:00～15:00頃

【問合せ先】さいむら観光協会

☎0175-38-4515

【URL】saikanko.sakura.ne.jp

“大間のマグロ”を味わう
～ブルーミングフェスティバル

毎年、舟競争大会、ライブショー、マグロ解体ショー



などが行われます。中でも舟競争大会では、激しい戦いが繰り広げられます。マグロ解体ショーは、巨大大間マグロを目の前で解体し、刺身を先着順で無料配布。毎年沢山の行列が並び大間のマグロを味わうことができます。夜には大間の夜空に約3,000発の花火が打ち上げられ、夏の夜空を彩ります。

【開催日】8月14日(火) 9:30～20:30

【開催場所】大間港(大間町大間字大間)

【問合せ先】大間町役場産業振興課

☎0175-37-2111(代)

【URL】www.town.ooma.lg.jp

自慢の逸品を満喫
～第40回いわない怒涛まつり

港町岩内ならではの特産品である「身欠きニシン」など「食」をメインにしたイベントです。地元飲食店による「岩内たら福屋台村」では、各店自慢の逸品をご提供します。さらに40回を記念して、夜空にきらめく数千発の大花火大会を開催！ キャラクターショーやライブなども繰り広げられ、町のゆるキャラ「たら丸」もお待ちしております。



【開催日】8月4日(土)・5日(日)

【主催・問合せ先】いわない怒涛まつり実行委員会(岩内町企画経済部企画産業課内)

☎0135-62-1011(内線315)

【URL】www.town.iwanai.hokkaido.jp

京都祇園の流れを汲む山車が巡行
～むつ市田名部まつり

下北半島最大の祭りで知られる「田名部神社例大祭」



では、北前船によって伝えられたといわれる京都祇園の流れを汲む豪華な5台の山車が、お囃子とともに市内を巡行します。クライマックスは最終日深夜の「五車別れ」で来年の再開を期すもの。期間中の夜に繰り広げられる流麗な「おしまこ流し踊り」も必見です。本州最北端の市で京都の香りが漂うお祭りです。

【開催日】8月18日(土)～20日(月)

【開催場所】むつ市田名部地区

【問合せ先】むつ市商工観光課

☎0175-22-1111(代)

【URL】www.shimokita-kanko.com

北の夏の終わりを盛り上げる
～ひがしどおりよさこい来さまい祭り

各チームが鳴子を手



に、見事なパフォーマンスと華やかな踊りを披露するイベント「ひがしどおりよさこい来さまい祭り」。毎年8月最終日曜日に村内外から十数チームが参加します。村の中心地、ひとみの里でのパレード、ふるさと広場での舞台演舞など、ところ狭しと踊る気迫あふれる演技は観るものに感動を与えます。会場の観客と踊り手の心がひとつになり、短い下北の夏の終わりを盛り上げます。

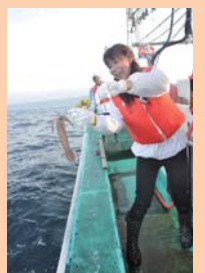
【開催日】8月26日(日)

【主催】東通村役場つくり育てる農林水産課(商工振興G) ☎0175-27-2111

【URL】www.vill.higashidoori.lg.jp

夏限定！
～風間浦のイカ釣り体験

イカ釣り遊覧体験を試してみませんか。海から引き上げた針にイカがかかった瞬間の感触は格別です。もしかするとイカの鳴き声も聞くことが出来るかも知れません。船上から見る大間岬に沈む夕陽は絶景です。



【開催期間】7～8月

※休み：毎週金曜日・イカ漁休漁日

【体験時間】17:30～18:30
(漁場まで約15分)

【体験料金】

大人(1人)3,000円 小学生(1人)1,500円

※幼児不可

【イカ釣り体験申込先】

風間浦村観光協会 ☎0175-36-2353

【URL】www.kazamaura.jp

みはまちょう
美浜町

福井県

安くて新鮮な食材が満載！ ～美浜ハートフル朝市

美浜町の農家・漁業団体などで構成されるグループが



収穫した野菜、魚介類、花苗等を持ち寄って開かれる朝市で、新鮮で安価な産品に人気が集まっています。特に、8月12日、11月25日、12月27日は「お徳な日」になっています。観光客向けにバーベキュー用品なども売っています。

【開催時期】4月15日(日)から12月23日(日)までの毎週日曜日の朝8時から

【開催場所】美浜町久々子水神公園広場

【主催】美浜ハートフル朝市の会

【問合せ先】美浜町役場農林水産課

☎0770-32-6706

【URL】www.wakasamihama.jp

かしわざき
柏崎市

新潟県

越後三大花火に酔いしれる ～ぎおん柏崎まつり

柏崎市内の小中学生によるマーチングパレード、市民



参加の民謡街頭流し、勇ましい掛け声と共に山車や神輿を繰り出すたる仁和賀など魅力満載。クライマックスは、26日夜の越後三大花火の一つである大花火大会。様々なスターマインをはじめ、尺玉100発一斉打ちと百花繚乱の花火大会は見るものを魅了。玉数約15,000発、毎年20万人以上の観客で賑わいます。

【開催日】7月24日(火)～26日(木)

【開催場所】柏崎市東本町、西本町、中央海岸一帯

【主催・問合せ先】ぎおん柏崎まつり協賛会
☎0257-22-3161

【URL】www.e-cotte.com/hanabi/

あいづわかまつ
会津若松市

福島県

会津の夏の夜をご案内 ～まちなかライトアップ

会津若松市では、市内の歴史的な建物を中心に日没か



ら午後9時までライトアップを行います。夕涼みがてら幻想的な夜の城下町を散策してみませんか。それに合わせて10月27日までの毎週土曜日と、月曜日が祝日の場合の日曜日、まちなか周遊バス「ハイカラさん」や「あかべえ」の夜間運行も行います。

【開催日】7月9日(月)～11月30日(金)
日没～21:00

【問合せ先】ライトアップ:会津若松観光ルネッサンス協議会事務局(会津若松市観光課内) ☎0242-39-1251

夜間運行:会津バス若松営業所

☎0242-22-5555

【URL】www.aizukanko.com

いいた
飯田市

長野県

イマココダケ劇場 ～いいた人形劇フェスタ2012

毎年8月の上旬に飯田市で開催される、日本最大の人



形劇の祭典です。全国・海外から人形劇団が参加し、様々な人形劇が市内のあちこちで上演されます。上演以外にも、人形劇パレード、人形劇の基礎を学ぶワークショップなど、楽しい企画盛りだくさんのお祭りです。

【開催日】8月2日(木)～5日(日)

【開催場所】飯田市全域の約120会場

【主催】いいた人形劇フェスタ実行委員会・飯田市・飯田市教育委員会

【問合せ先】いいた人形劇フェスタ実行委員会事務局 担当:松村 ☎0265-23-3552

【URL】www.iida-puppet.com

たかはまちょう
高浜町

福井県

静と動の光の饗宴 ～漁火想2012

いさりびそう
漁火想は「人の和」をを広げること



を目的とした、手づくりイベント。約12,000本の砂浜キャンドル・まちなかキャンドルと、市販のドラゴン花火を使用する櫓龍(やぐらドラゴン)などの花火によって構成されています。年々スケールアップして高浜の夏を彩る、静と動の一大イベントになっています。

【開催日】7月28日(土) 17:00～

【開催場所】城山海水浴場および高浜町内(砂浜キャンドル・まちなかキャンドル)、城山海水浴場～鳥居浜海水浴場(櫓龍(やぐらドラゴン))

【主催】若狭たかはま漁火想実行委員会(若狭高浜観光協会) ☎0770-72-0338

【URL】www.wakasa-takahama.jp

ちよう
おおい町

福井県

勇壮・豪快！ ～第18回若狭おおいのスーパー大火勢

華やかに乱舞するYOSAKOIや幻想的な松明行列、太鼓の乱打にはじまり、高さ20m、重さ



1tの木の葉形の巨大松明を、火の粉を浴びながら懸命に回す勇壮な若衆の姿は見るものを圧倒します。300年余りの伝統を持つ愛宕の火祭り大火勢を今に受け継ぐもので、若狭おおいの夏は、この炎の饗宴で一気に最高潮に達します。

【開催日】8月4日(土)

【開催場所】うみんびあ大飯

【主催・問合せ先】スーパー大火勢実行委員会 ☎0770-77-9111

【URL】www.town.ohi.fukui.jp

手を取り仲良くゴール
～第32回馬路おしどりマラソン

馬路村で毎年9月の第3日曜日に行われるのが「馬路



おしどりマラソン大会」。このマラソンのユニークなルールは、夫婦で参加して、必ずお互いの手を握りあってゴールするという。村内外からたくさん参加者がいる人気のイベントです。3kmと5kmのコースがあり参加費は夫婦で5,000円。参加者には馬路村のゆずの加工品、完走者にはメダルが贈られます。

【開催日】9月16日(日) 9:30～

【主催】馬路村教育委員会 ☎0887-44-2216

【URL】www.vill.umaji.kochi.jp/html/kyouiku.htm

地産地消を推進する
～きははいや伊方まつり

伊方杜氏の造った地酒など、伊方町の特産品などを広



く町内外にPRし、消費拡大と地場産業の振興を図るためのサマーフェスティバル。杜氏の里の酒祭りや、伊方踊りなどの催しが開催されます。フィナーレには、夜空を飾る約4,000発の花火が打ち上げられます。昨年からは東北支援として、岩手県の清酒18銘柄の試飲も行っています。

【開催日】7月29日(日) 8:50～20:00

【開催場所】伊方中学校グラウンド他

【問合せ先】伊方町産業振興課商工振興室

☎0894-38-0211(代)

【URL】town.ikata.ehime.jp/kankou/

生命の営みに感動
～ウミガメ産卵観察会

アカウミガメは国際的な絶滅危惧種として指定されて



います。御前崎市は、まとまった数のウミガメが産卵のために上陸してくる日本の北限として貴重な場所であるため国の天然記念物として地域指定を受けています。そのため市教育委員会より7名をウミガメ保護監視員に委嘱し、保護活動を行っています。下記のURLを確認して観察会に参加ください。

【開催日】7月22日(日)～29日(日) 20:30

～22:00【開催場所】下岬海岸(「下岬」信号機付近)

【主催・問合せ先】御前崎市教育委員会 社会教育課 ☎0548-63-1129

【URL】www.city.omaezaki.shizuoka.jp/sha/kyo/umigame/pdf/sanran-kansatsu2012.pdf

見るものを圧倒する“喧嘩綱”
～川内大綱引

日本一の大きさ・重さを誇るジャンボ綱を男たちが一



斉に引き合う川内大綱引。いわゆる普通の綱引きとは全く異なる薩摩川内市の伝統行事です。鹿児島県および薩摩川内市指定無形民俗文化財にもなっています。体と体が激しくぶつかり合うその様は“喧嘩綱”とも呼ばれ、見るものを圧倒します。400年以上も続くといわれる男たちの熱い闘いを見に毎年多くの観光客が訪れます。観光客は「綱打ち」にも参加できます。

【開催日】9月22日(土) 19:00～

【主催】川内大綱引保存会 ☎0996-21-1851

【URL】ootsuna.satsuma-sendai.jp

『荒城の月』ゆかりの地
～おも城サイトミュージアム

国指定史跡岡城跡は昭和11年に指定を受けて以来、今



年で76年になります。『荒城の月』ゆかりの岡城跡への理解を深め、知られざる岡城の魅力を見つけ、新たに整備された曲輪を見学するプログラムです。月2回、市教育委員会文化財課の職員が専門的な内容を含め、わかりやすく史跡内の案内を行っています。(要予約)

【開催日】毎月第2・4金曜日 13:00～(約2時間) ※小雨決行

【集合場所】岡城跡駐車場

【主催・問合せ先】教育委員会文化財課

☎0974-63-4818

【URL】www.city.taketa.oita.jp

町民が主役
～第24回苓北じゃっと祭

「じゃっと祭」は従来行われてきた夏祭り



と港祭りを統合して昭和63年に発足した町民総出の祭り。「じゃっと」とは苓北町の方言で、「そうだ」「本当だ」という意味になります。将来にむけて「地域住民こそぞって、そうだ(じゃっさい)と一丸となって突き進もう」という願いが込められています。海をテーマに、花火大会、ペーロン大会などの催しが行われ、苓北町は祭り一色に染まります。

【開催日】①8月5日(日)天草れいほくペーロン大会

②8月11日(土)苓北じゃっと祭

花火大会【開催場所】①苓北町富岡袋港

②苓北町富岡港周辺【主催・問合せ先】苓北町商工観光課

☎0969-35-1111

【URL】reihoku-kumamoto.jp



リニューアルした「神恵内オリジナルカップうどん」

村産のホタテやタケノコ、コンブの粉末、道産の小麦粉を使用し、このカップ麺、一般商品として販売事業

平成21年、北海道神恵内村では、村民と行政の協働で特産品開発を進め、村内のホタテ生産者や商店経営者、漁協職員などが協議会（通称・チームカップ麺）を立ち上げて、『神恵内オリジナルカップうどん』を5万個、開発・製造した。「地産地消」「安心・安全」をテーマに、神恵内

村産のホタテやタケノコ、コンブの粉末、道産の小麦粉を使用し、このカップ麺、一般商品として販売事業

へと展開するに製造コストがネックとなり、試作品として村内外に配布と



電源地域 振興トピックス

産品開発や交流人口拡大に向けた取り組み

このコーナーでは電源地域各地の地域振興の話題を取り上げていますが、今回は北海道神恵内村と福島県敦賀市の話題などをお届けします。読者の皆様の中で、こうした話題の発信希望をお持ちの方はご連絡ください。

E-mail: furusato@dengen.or.jp



神

恵内オリジナルカップうどんがリニューアル
本年4月に販売して5月中旬に完売
北海道神恵内村

今年、敦賀市は「敦賀ー長浜間鉄道開通130周年」「敦賀ーウラジオストク定期航路開設110周年」および「欧亜国際連絡列車運行100周年」の佳節を迎える。これを契機に様々なイベントを行っている団体等と連携し新規および既存のイベントに、こうした鉄道開通記念等の統一テーマを付加する『つるが「鉄道と港」フェスティバルイヤー』を展開する。

内容は、イルミネーションあるいはライトアップによる「夜の敦賀港」を演出する事業、敦賀鉄道の夜明け130年の歴史をイメージした「食」を提供する事業、テーマパーク、遊園地等アミューズメント機能を有した「遊び」を演出する事業、アウト

レットモールをイメージした「買う」を演出する事業など。7月20日のオープンングに始まり、従来の大型イベントに併せて、観光物産フェアや商店街でのイベント、展覧会、見学会、記念クルーズ、体験ツアー、ミニライブなどのプログラムがぎっし



鉄道と港をイメージしたイルミネーション・ライトアップ

プログラム満載の「つるが「鉄道と港」フェスティバルイヤー」が開幕

福島県敦賀市

広市の（株）とかち麺工房が製造した。価格は1個300円（税込）。3,280個を製造して村内の『道の駅』と『リフレッシュプラザ温泉998』で販売したところ、5月中旬に完売するという人気商品になった。

上げられている。スープと麺、具材の相性も抜群で、素材本来の風味や食感を楽しむことができる。今の段階では、販売ロット数や価格面で利益が出るところまでには至っていないが、「神恵内村」を体感できる文字通りの「食べられるPRパンフレット」の役割は十分に果たしており、今後のさらなる展開に注目が集まっている。

りと組み立てられている。これに関連した菓子やお茶、ワイン、駅弁などの新商品6商品も開発された。

この通年イベントの催行には、県・市や経済団体などと市民が協同で、「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会を昨年12月に結成した。

行政や各種企業と市民との「協働」によって「鉄道と港のまち敦賀」のまちづくり」に対する市民意識の醸成を図ろうとするもの。今年の敦賀は熱い1年になりそうだ。



『つるが「鉄道と港」フェスティバルレイヤー』の統一ロゴマーク

詳しくは専用ホームページ：www.tsuruga.or.jp/tetsudo130/index.html。

福島県で全原商が「地域振興懇談会」を開催

5月29日（火）、福島県郡山市で『全国原子力立地市町村商工団体協議会』の主催（事務局・柏崎商工会議所）による「地域振興懇談会」が開かれた。



郡山市内で開催された「地域振興懇談会」風景

全国の原子力立地市町村の25の商工団体の代表者が一堂に会したこの会合では、富岡町商工会副会長から福島第一原子力発電所事故以降の地域の状況、大熊町商工会と双葉町商工会の企業経営者からは、再建に向けた取組事例などが報告され、厳しい状況下にあるながらも、復興に向けて前向きに歩む商工業者の具体的な活動が紹介された。

翌30日（水）には、福島第二原子力発電所を視察して、3・11大震災後の被害状況や復旧現況の説明などを受けた。

仮設住宅に仮設の店舗が次々とオープン

会津若松市にある大熊町最大の松長近隣公園仮設住宅地域内にあるのが仮設店舗「おみせ屋さん」。昨年10月17日にオープンした。約60坪の食料品や日用品が並ぶ店内の半分は、テーブルと椅子が置かれたコミュニティスペース。雪深い地域の仮設に暮らす約200世帯の人々にとっては買物のみならず、情報交換の場として欠かせない存在になっている。

富岡町民が避難する大玉村にある安達太良仮設住宅前にも、仮設店舗「富岡えびすこ市場」がオープンした。かつて富岡商店街で開催していた活気溢れる「えびす講市」にあやかったもので広さは約28坪。運営は富岡町商工会や個人の8事業者が集まって設立した「合同会社・富岡さくらの郷」だ。大玉村の仮設住宅には約300世帯が避難している。「合同

会社

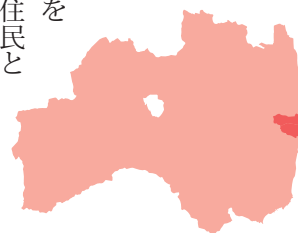


会津若松市の「おみせ屋さん」



大玉村の「富岡えびすこ市場」

福島県大熊町・富岡町



活力ある地域づくりに向けて 特産品開発を切り口に地域コミュニティの活性化を

愛媛県伊方町

企業組合「さだみさき自然堂」を立ち上げ、金太郎芋のブランド化を推進する田村菓子舗の代表取締役三代目田村義孝氏の活動を支援するため、当センターはふるさと回帰支援センターのメ
ンター事業をサポートする形で対応を行いました。その結果と今後の見通しを紹介いたします。

地域特産品を使って 地域再生にかける想い

地元の漁師が保存用に加工した粒うにを直接仕入れて作った「うにまじゅう」を主力商品とする伊方町田村菓子舗の三代目田村義孝氏は、地元、佐田岬地区の活性化のために一次産品をお菓子に変えてPRし、佐田岬地区の交流人口を増やそうと努力していったところ。

丁度同じタイミングで、田村氏も参加する「おいもさん作り推進事業検討会」において、ベニアズマ品種で伊方町の特産品である「瀬戸金太



田村菓子舗

郎芋」をブランド化しようとする動きが出てきた。この芋は愛媛県内では甘味の強いサツマイモとして知られ、佐田岬半島特有の栽培条件（寒暖差の大きい高地、晴天の多い瀬戸内気候、水はけの良い土壌）とのマッチングが良いとのことである。糖度が40度を超えるものもあるそうだ。田村氏はこの推進事業で割り当てられる町営農地にて、昨年、友人と2人で芋の栽培を行い、併せて栽培・収穫・加工に関する体験ツアーを実施する計画を立てた。

ゆくゆくは同様な手法で町の一次産品のブランド化、ひいては佐田岬半島のブランド化に取り組み、着実な地域活性化のプロセスに繋がりたいと語る。この3月には伊方町にて企業組合「さだみさき自然堂」を発足させ、特産品販売の拠点とするとともに、少子高齢化により過疎化が進む地域の雇用の受け皿や、地元のお年寄りが持っている知識や技術を披露し生きがいを創出で

きるような場作りをしていきたい、との熱意を強めているところだ。

農村六起で地域コミュニティの創造と活性化

昨年7月には、内閣府の「農村六起ふるさと起業家認定」を受け、上述の企業組合「さだみさき自然堂」をコアに伊方町で6次産業化を進めている田村氏だが、その根底にあるものは自分の住む地域に昔の活気を取り戻したいという想いである。

伊方町を始め、佐田岬地区にも少子高齢化による地域集落の縮減は起こっており、地域コミュニティの希薄化も進んでいる。この原因の一端を田村氏は地域に雇用がないか



金太郎芋
ロールケーキ

らと考えている。地域に雇用の受け皿があれば、生まれ故郷を離れざるを得なくなった人々も戻ってくるのではないか。

その為にはこれまでのように付加価値の高い柑橘類を栽培促進するだけではなく、品種と土地を結びつける工夫、そして、それをブランド化し成功させることで地域に自信をつけさせようとしている。その方法として、上述した芋栽培に適した佐田岬半島の特徴を生かした新品種の芋を使った加工品で芋をブランド化し、それをアピールすることによって、伊方町を始めとする佐田岬地域の魅力を高めるといえるものである。そのために、NPO法人佐田岬ツーリズム協会とも連携し、芋の栽培・収穫体験のツアーも本格化させ、特産芋を起点に佐田岬地区に注目を集め交流人口の拡大と観光客の誘客を行うことで、雇用の増加に繋がりたいと考えている。佐田岬地区の自然環境・地域の景観に関する評判が訪れた観光客の口から広まり、交流人口が増加すれば、この地域に住む人も自らの土地に誇りを再び持てるようにな





金太郎芋収穫風景

り、地域のよさを積極的に地域外の人々に発信していくことになるだろうし、田村氏以外にも地域の特産品をブランド化しようとする動きにつながっていくことだろう。

芋とその加工品を通じた地域を結ぶコミュニティの創造と活性化はこれからということ、思いもひとつおである。今年は芋の植え付け、芋掘り体験、収穫物を使ったお菓子教室など、会員も募集している。体験メニューに参加出来ない方には、年2回、芋と加工品を送る予定にしている。

企業組合「さだみさき自然堂」の連絡先は以下の通り。 ☎090-6283-6649

**電源地域
振興センター
事業の紹介**

伊方町田村菓子舗さんが次に進めたいこととして「販路開拓」と「新商品開発」があります。電源地域振興センターでは、こうしたご要望にお答えするためのメニューを用意しております。

Menu1

「特産品の現状評価および販路開拓」には**「製品相談・商談会を活用しよう」**

「ターゲットを絞って特産品を開発したけれど、売上げがなかなか上がらない。販路開拓ができない」とよくお聞きします。そんな時、開発した特産品が消費者ニーズにマッチしているのか再度確かめる必要があります。しかし、既にマ

「ターゲットを絞って特産品を開発したけれど、売上げがなかなか上がらない。販路開拓ができない」とよくお聞きします。そんな時、開発した特産品が消費者ニーズにマッチしているのか再度確かめる必要があります。しかし、既にマ

ーケット調査し完成した特産品の再調査となると、なかなか前に進まないのが現状です。そこで、流通業界の方から別の角度で商品

「定期型」の実施時期・場所（予定）は以下のとおりです。
●9月大阪、11月福岡、2月東京（概ね2ヶ月前に募集を開始します）

評価いただくことが非常に効果的です。それが、電源地域振興センターの**「製品相談・商談会」**です。

また、ご要望により、地元へバイヤーを派遣し、特産品研修・生産現場見学等とも組み合わせ可能な「現地型」、出張時に首都圏での面談の機会を提供する「随時型」の3タイプの**「製品相談・商談会」**をご用意しました。

製品相談・商談会は、全国の百貨店・食品専門店・スーパー等のバイヤーより、現在のトレンドや消費者ニーズから特産品の開発・改良について、また、特産品と消費者を結ぶ流通についてアドバイスを得られます。

「売上げが上がる」「販路開拓ができない」とお悩みの方は、是非、ご活用ください。

消費者の代弁者であり、流通について熟知しているバイヤーは、多忙のためお約束がとりづらいのが現状ですが、当センターでは1対1で面談できる機会を提供いた

■窓口は地域振興部 販売支援課
☎03-6372-7310
eメール: msp@dengen.or.jp
となります。
お気軽にお問い合わせください。

Menu2

「新商品開発」には**「専門家派遣事業を活用しよう」**

この素材があったから、この商品を開発したとよくお聞きします。はたして、それで売れる商品となるでしょうか。商品開発は、消費者ニーズを正確に把握し、それに沿った商品開発をする必要があります。それには、消費者ニーズ調査、コンセプト作成、流通ルート確定、素材の見極め、試作品製作、パッケージ製作、販売・販促等かなりのステップがあります。

電源地域振興センターでは、専門家派遣事業を用意しており、皆様からのご要望（ステップ）に適した専門家の方を派遣し、皆様と取り決めたゴールに向けてノウハウ・アドバイスを提供します。

もちろん「新商品開発」に限らずさまざまな課題に応じてその分野の専門家を派遣いたしますので、ぜひご活用ください。

なお、専門家派遣事業（下期）募集のご案内につきましては、7月中旬にホームページ（www.2dengen.or.jp）でお知らせいたします。（募集締切：9月21日（金）予定）

■窓口は地域振興部 研修派遣課
☎03-6372-7300
eメール: shinkou@dengen.or.jp
となります。
お気軽にお問い合わせください。



平成24年度
電源地域振興センター
事業のご案内

■人材育成事業（研修事業）

電源地域の長期的かつ自立的な振興をお手伝いするため、平成2年度から研修事業を行っております。

本事業は電源地域市町村のニーズの高い地域活性化に係るテーマを選定し、経験豊富な専門的知見・ノウハウを有した講師による講演や先進的事例紹介、グループワークによる検討など具体的な実践的な内容となっております。本研修事業を皆様の地域のまちづくりに是非ご活用ください。

■参加対象

電源地域の市町村・都道府県等の行政職員、各種団体、事業者、NPO、個人、電力会社等で電源地域の振興に関わっている方。

■申込方法

今後ご案内する各研修のリーフレットまたは当センターのホームページをご確認の上、お申込ください。

【お申込・お問合せ】地域振興部 研修派遣課
☎03-6972-7300
ホームページ：www2.dengen.or.jp/html/works/kensyu/index.html
eメール：jinzai@dengen.or.jp

■商品試験販売事業

「自社商品が都市圏で通用するか試してみたい」、「都市圏の消費者ニーズを知りたい」、「商品陳列・装飾・販売方法に

りたい」、「商品陳列・装飾・販売方法についてアドバイスをもらいたい」等のニーズにお答えするため、都市圏の百貨店やスーパーにおいて、テストマーケティングを行いながら事業者自ら実際に販売・体感し、ニーズ解決のヒントを掴んでいただく場を提供いたします。実施店担当者およびバイヤー等から、販売や商品に関するアドバイスを受けられることができ、消費者の生の声を聞く

■平成24年度 研修一覧 ※詳細は各市町村に送付しております「研修のご案内」またはホームページ (www2.dengen.or.jp) をご覧ください

No.	テーマ	時期	日数	定員	参加費	研修場所	講座のポイント
1	少子高齢時代の地域づくり	H24.9	2日	25人	20,000円	電源地域振興センター	地域が一体となったコミュニティづくりや、地域特性を活かしたまちづくり等、少子高齢時代における地域づくりのあり方について、事例を通して学びます。
2	災害に強いまちづくり ～これまでの災害の経験と教訓を踏まえて～	H24.10	2日	25人	20,000円		これまで経験した様々な災害に対する教訓や災害対応を通し、今後の防災・減災対策のあり方を考えます。
3	企業誘致による地域活性化	H24.11	2日	25人	20,000円		関係機関の専門家や企業経営者等からの講演により、産業の動向や関連政策、企業誘致に関する実務の啓発、企業誘致事例等について学びます。
4	地域農業の活性化 ～所得向上・担い手対策等～	H24.12	2日	25人	20,000円		直売所や農家レストラン、農商工連携等により、農業が元気になる、また農業をきっかけとして地域が元気になるための各種方策を学びます。
5	地域産業の活性化	H25.1	2日	25人	20,000円		地域資源の活用や企業・地域間の新たな連携等、地域産業の活性化のための各種方策を学びます。
6	地域ぐるみで進める観光まちづくり ～観光地域づくりの中核を担う中間組織の役割とは？～	H25.2	2日	25人	20,000円		それぞれの地域における中間機能（プラットフォーム）の強化と組織づくりの考え方や手法を、事例を通じて学びます。
7	多様な主体が活躍する協働によるまちづくり	H24.8.30～31	2日	25人	20,000円	宮城県仙台市	地域の多様な主体が活躍する協働によるまちづくりについて、講義や事例などからそのポイントを学びます。
8	地域産品を活用した特産品づくり ～売れる特産品づくりとは？～	H24.8～9	2日	25人	20,000円	近畿地方	「売れる特産品」に関する講義や各地域の特産品を用いたグループワーク等を通じて、今後の自地域に活かせる特産品づくりを学びます。
9	多様な主体が活躍する協働によるまちづくり	H25.1～2	2日	25人	20,000円	九州地方	地域の多様な主体が活躍する協働によるまちづくりについて、講義や事例などからそのポイントを学びます。
10	地域ぐるみで進める観光まちづくり ～観光地域づくりを持続的に進める方策とは？～	H24.10～11	3日	25人	30,000円	先進地	現地での視察を通して、「地域ぐるみによる観光まちづくり」の考え方や手法を学びます。
11	海外のエネルギー情勢を学ぶ ～原発の安全対策と再生可能エネルギーを活用したまちづくり～	H24.10～11	7日	10人	600,000円（概算）	欧州	海外における原子力発電所の安全対策や再生可能エネルギーを活用したまちづくりの先進地を視察し、その取組みを学びます。

■商品相談・商談会

電源地域の特産品の開発・改良および販路拡大を目的に、流通関係者をアドバイザーとして招聘し、1対1で具体的なアドバイスを受ける事ができる面談の機会を提供いたします。3つの形式を用意しました。地域や事業者の実情に合わせてご利用下さい。

- 定期開催型
 - 現地開催型
 - 随時開催型
- 内容はP17をご参照の上、ぜひご利用ください。

*なお、現地型・随時型につきましては、常時募集をしておりますのでお問合せください。

【商品試験販売】および【商品相談・商談会】のお申込・お問合せは地域振興部 研修派遣課
☎03-6972-7300
ホームページ：
(商品試験販売) www2.dengen.or.jp/html/works/hanbai/sanpin.html
(商品相談・商談会) www2.dengen.or.jp/html/works/hanbai/testsales.html
eメール：msp@dengen.or.jp

第2回

「電気のふるさと」 フォトコンテスト

審査 結果



Denki-no-Furusato Photo Contest 2011



総評

今回のコンテストは昨年
に続き第2回目であり、コン
テストの趣旨が徹底したこと
から昨年以上に優れた作品
が見られた。コンテストで求
めている電源地域は限られた
地域であり、その地域内で
撮影となるが、応募作品に
は下調べをして人々の生活
やその地域での祭りと特有
の風景を見詰めての撮影な
ど苦勞の跡が見られた。今
回の入賞作品はいずれも光
と気象条件を見極めてのも
のであり確かなカメラアイ
が光った。



「寒風の中で」 小椋 利昭さん

撮影地域：千葉県四街道市

裸祭りのクライマックスの場面である。無病息災、五穀豊穡を願っての村祭りであり、水を張った泥田の中での激しい騎馬戦である。画面中央に男たちの戦う姿を配置して視線を集中させる構図が成功している。背景の観衆を明るく描写し、日影の、男達との明暗差で浮き上げた描写が見事である。



「黄昏の棚田」 中村 昭夫さん

撮影地域：三重県熊野市

高いカメラ位置により1,200枚の棚田が光り輝いている。空気の澄んだ日に夕焼け空に向かっての撮影が適切であり、部分的にピンク色に染まった棚田を美しく描いている。縦位置画面で棚田を大きく扱い、夕焼け空をわずかに見せた画面構成が成功している。



「静寂」 鹿島 和生さん

撮影地域：佐賀県佐賀市

早朝に朝もやの中で魚釣りをしている人をアクセントにし、鉄橋を画面上部に大胆に斜めに配置している。視線は橋に沿って対岸の丘に注がれるが、丘には朝霧がかかりピンク色にぼんやりと見えている。朝焼けの丘に霧のベールがかかることで神秘的な美しさが高まった。

選評

審査委員長

森村 進さん

東京都出身。日本大学卒。カメラメーカー勤務を経てフリーになる。各地の写真愛好家の指導に当たるいっぽう風景写真をテーマにした作家活動を積極的に行っている。

国内での写真展「花火曼荼羅」(ニコンサロン)、「大空と大地のコンチェルト」(ニコンサロン)をはじめ「日本の花火」をニューヨーク、チューリッヒ、北京で開催。

著書は「35ミリ一眼レフカメラ塾」「デジタル一眼レフの極意」(学習研究社)「ネイチャーフォト自由自在」(毎日新聞社)など多数。日本写真家協会(JPS)会員。





表紙：第2回「電気のふるさと」フォトコンテスト最優秀賞「寒風の中で」撮影者：小椋利昭氏 撮影場所：千葉県四街道市
裏表紙：①会津若松市の「まちなかライトアップ」 ②飯田市の「いいだ人形劇フェスタ」 ③高浜町の「漁火想」 ④伊方町の「きはなはいや伊方まつり」
⑤高浜町の「医学生向けの海と地域医療を体験するツアー」 ⑥泊村の「とまり群来まつり」 ⑦共和町の「共和かかし祭」